

平成山鉦

今年で36年目を迎える「平成山鉦」、今日まで様々なイベントに参加し、多くの皆さまにご覧いただきました。2024年は、5月13日から5月18日まで、日田ロータリークラブ主催のイベントにて、パトリア前で展示・運行を行いました。その後は、大和町海王館横に移動し、7月の祇園本番まで展示され、多くの観光客や日田市民の皆さまにお楽しみいただきました。

昨年は、残念ながら天候不良により「集団顔見世」が中止となってしまいました。今年こそは、駅前にて盛大に開催したいと考えております。



日田祇園囃子

日田祇園において神事の風情を現しかつ威勢をつけるためのお囃子で、笛、太鼓、三味線の音色で山鉦巡行に華を添えます。

曲目は江戸から昭和初期にかけて流行した端唄・俗曲を、山鉦の囃子にアレンジしており、山鉦巡行の為に日田の庶民が生み出した素朴なお囃子です。

現在は保存会が結成されており、古くから伝わる伝統の音色を継承しています。手作りの篠笛による独特の音色をお聞きいただきたいと思います。



本年の平成山鉦の運行日は7月26日(土)、夜8時からの開始を予定しております。また、運行終了後にはパイパイを300本、無料で配布いたします！ぜひ皆さま、夜の幻想的な平成山鉦を見にお越しください。

日田祇園の歴史・概要

日田における祇園信仰は、およそ500年前に悪疫鎮護の願いを込めて始められ、正徳4年(1714年)には、現在のような山鉦が奉納されていました。

祭神は素盞鳴尊(すさのおのみこと)。豆田八坂神社・隈八坂神社・竹田若宮神社の三社の祭礼行事で、平成8年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

これらの山鉦は、全て町内の皆さんの手作りによるものです。毎年、歌舞伎や人形浄瑠璃の一場面を題材とした飾り付けが行われ、日田唯一の人形師「長嶋静雄さん」の手により、各山鉦に寄せられた人形に命が吹き込まれます。

平成28年には、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

祭礼への流れ

7月初旬

■小屋入り行事

作業始めとして祭に参加する全員で御神酒上げを行います。

■色あげ作業

解体された山鉦の館等の色を塗り直し、金紙を使った欄干の金具等を貼り替えます。

■パイパイ染め

山鉦の高欄の両側に挿すパイパイを、塗料で染め乾かします。

2週間前

■車揚げ

木製の山鉦の車輪は、普段池の水の中に沈められており、山鉦の組立前に池から引き上げます。

■山鉦組立(飾り付け)

色揚げされた館や、車輪等が組み立てられ、パイパイや手作りの松ノ木、牡丹等を飾ります。

1週間前

■御輿洗い神事

■人形乗せ

各町内に振り分けられた華題の人形を、人形師の指図の元に山鉦に乗せます。

■山番

各山鉦の納所で夜警が始まります。

■流れ曳き

山鉦のバランスや車の調子を見るための試運転を行います。

■集団顔見世

流れ曳きの日に、豆田4基と隈・竹田4基に平成山鉦を加えた計9基の山鉦がJR日田駅前へ集結します。

当日

■祇園祭典(土日2日間)

豆田地区、隈・竹田地区の各地区ごとに山鉦が巡行されます。

翌日

■山鉦崩し

各町ごとに山鉦の解体や、祇園山鉦会館への収納等の作業を行います。

■仕舞い勘定

掛け振り帳で購入した物の支払いや、山鉦に上がった清酒等が清算されます。

■薙入り

打ち上げを兼ねて慰労が行われ、一切の祭の行事が終わったとされます。